

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2012年
5月31日(木)
第75号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

自治体に働く保育労働者の東京集会 (5/27)

会場一杯の214人で交流・意思統一

5月27日、第21回自治体に働く保育労働者の東京集会が、産別を超えて組織されている「東京の自治体保育労働者運動実行委員会」の主催で、板橋グリーンホール開催されました。15区3市から会場一杯の214人の参加がありました。

小山美津枝実行委員長の開会あいさつのあと、東京自治労連の荻原委員長が「保育の市場化をすすめる子ども・子育て新システムを何としても阻止しよう」、福祉保育労東京地本の國米委員長が「毎日どこかでリレー宣伝を実施している。運動をさらに広げよう」と各々来賓あいさつがありました。

基調報告として、高橋光幸実行委員から最新の保育情勢、「新システム」関連法案の審議の進行状況、法案の内容と問題点、深沢事務局長から集会の基調、運動の状況の報告がありました。

一橋大学の中田康彦教授が「教育行政と子ども・子育て新システム」と題して記念講演。学校が教育の場から学校運営へと転換、教職員の階層化を推進、職務の個別化と事務作業の増大、子どもとの接点をはなす教育現場の実態を解明。学校で起きていることが保育現場にもダイレクトにもちこまれていると指摘。「新システム」については、何も知らない一般の人が理解できるなかみで、具体的な問題点を伝えてほしいと講演を締めくくりました。

特別報告では、品川区職労からは、子どもと保育の実践からかけ離れた押しつけの実態の告発、東京公務公共一般からはビジョンハーツに委託された保育園の保育内容の告発がありました。

午後からは5つの分科会と2つの基礎講座が開催されました。

「新システム」に反対する運動分科会

10単組から12名参加。午前中に学習した内容を受けて「新システム反対運動」の分科会は、より具体的な意見交換の場となりました。

練馬・江東・足立・文京の4区からは、「他団体や区職労との共闘で得た成果」やそれぞれが抱えている切実な課題について報告。特に足立からは、すでに行われている新しい保育内容(実態)についての報告がされ、具体的な意見交換が活発にされました。

改めて「新システム」が導入されれば、保育現場に混乱が生じ保護者や子どもの権利・保育士の健全な労働環境が脅かされることへの危惧や怒りの声が多く上がりました。

保護者・区民、そして一般組合員への運動や学習の広げ方に対する課題もありますが、自分たちが動けば確実に関心が広がり成果に繋がることも実証されたので、各単組、運動の環境に差があっても、やれることを諦めずに続けていくことの大切さや地元議員や自治体へのアプローチの重要性を全員で確認しました。

公立保育園の民営化に反対する運動分科会

参加者は10単組15人と助言者加藤久忠さん。レポート報告後、参加単組すべてから、現在の民営化の状況を報告。共通点は、初めての民営化の時は運動が盛り上がったがその後は停滞し、形は様々だが、自治体の計画通りに粛々と進んでいるということ。また「新システム」の先取りという形もあります。

助言者の加藤さんから、民営化の動向と「新システム」で出されている公私連携型総合こども園が通れば、公立は全て、民営化、株式会社化になる恐れがあることが話され、それぞれの自治体の運動と合わせ、新システム反対の取り組みが大変重要であることを参加者で確認しました。

国立市職

園医、スーパー、私立園、市諸施設、公園等で署名展開

国立市は今までの署名でも職員数や規模の割にはとても多くの署名を集めてきました。それは職員1人1人がかなり意識して取り組んできたこと、また保護者との協力のもとに進めてきた結果だと思えます。しかし駅頭では筆数は伸びず、思うようには署名が集まらなくなってきました。

今回取り組んでいる新たな「子ども・子育て新システム」の署名では、今までとは違う場所や施設にも呼びかけて子育て世代に広く知ってもらうことに重点をおきました。

まずは「新システム」のビラを色々な施設に貼らせてもらうため、4園で施設を出し合い連絡をとって回りました。保育園医師は各園が担当、スーパー、私立園、子育て支援施設、学童、児童館、そのほか市の施設など…。

その後、公園を中心に署名活動。一番関係のある子育て世代に声をかけるものの「新システム」についてはほとんどの方が知らないのが現状で、署名数にはなかなかつながりませんでした。しかしその場で説明し、少しは知ってもらうことができたように感じています。

各園での活動は保護者会との連携で4園とも門前での署名配布と回収をしました。また先日は市役所前に立って署名を集めました。

署名数をのばすことは難しいですが、広く知ってもらうという点では今まで以上の活動になっていると感じています。締め切りまであと少しなのでちょっとでも集まるよう再度呼びかけているところです。

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。配信希望者は氏名と所属、「保育闘争委ニュース希望」と明記し、パソコンよりメールでお申し込みを。内容を圧縮した「携帯メールニュース」は携帯からメールでお申し込みを】